

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	TAKUMI高槻教室		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 12月 29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 12月 24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者様のご様子について、口頭、電話、LINE等を使用し都度共有を行っている。	FBの時間をしっかり確保し、事業所での活動の様子を伝える他、家庭でのお悩み事やお困りごとなどについて積極的に問い合わせ、保護者様が職員に相談しやすい環境を作っている。必要であれば、園等に訪問し関係機関で連携を取り対応を行っている。	家族支援面談の回数を増やす等して更に情報共有の質を高め支援に繋げていく。
2	事業所が綺麗。	利用者様や保護者様が気持ちよく活動できるよう、日々の清掃は毎日役割分担を实践している。	倉庫や事務所内等、利用者様から見えない所も掃除し、職員も気持ちよく勤務できる環境を整えることが、良い療育の提供に繋がることを自覚し、取り組む。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所前の階段。	設計上変えることは難しいが、事故などに繋がらないよう案内する。	飛び出し、店頭に繋がらないよう、特に雨の日等は利用者様や保護者様にゆっくり歩いて進んでもらうよう意識できる声掛けを行う。
2	保護者会の実施がない。	実施場所や時間等、具体的な話ができていない。	保護者様のニーズにあった保護者会が開催できるよう、実施に向け動いていく。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 TAKUMI高槻教室

公表日 2026年 2月 28日

利用児童数 : 28

回収数 : 15

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	15					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	15				1人1人にしっかり声かけして下さっていませんが、人数が多くなると先生方も忙しそうにバタバタされている印象です。	人数が増えても1人1人丁寧に対応できるよう職員同士の連携を強め支援にあたる。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	13		2			
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	15					
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	12	2			常駐は難しいかもしれませんがOTの巡回などがあると嬉しいです。	会社全体で専門職が多数入職できるように試行錯誤していく。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	14		1			
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	15					
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	14		1			
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	13	2				
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	13		1			
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	1	1	5	8		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	15					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	15					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	7	2	2	4		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	15					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	14			1		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	15					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2	1	6	6		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	13			2		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	15					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	10			5		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	15					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	8	1		6		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	3	2	1	9		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	11	1		3		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	13			2		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	14					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	15					
	29	事業所の支援に満足していますか。	13	2				

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		TAKUMI高槻教室				公表日	2026年 2月 28日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・ 体制 整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5					
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5			利用人数が多くなると、全員への個別対応が難しい為、満足した療育が提供できるようクール編成や職員配置を思索していく。		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		フロアの床にテープでの色分けや、イラストを使用し視覚的にわかりやすいようにしている。	階段がある為、事故に繋がらないよう注意喚起を定期的に行う。		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		毎日掃除を徹底しており、利用者様の声に合わせて空調の温度も都度調整している。			
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		個室ではないが、パーティションを使用し、クールダウンができるスペースの確保を行っている。			
業務 改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		毎日のミーティングで、利用者様の様子や保護者様からいただいた話しについて共有し、支援に繋げている。			
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5					
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5					
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5					
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5					
適切 な 支 援 の 提	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5					
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5					
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5					
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5					
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5					
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5					
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5					

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		月間や週ごとや、スポットでのイベントを立案、全職員がメニューを考えることで固定化しないよう工夫している。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		活動中に個別での対応も可能なよう職員を配置している。		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5				
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5				
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5				
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5				
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5				
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5				
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5				
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	1		希望があれば行う。	
	28	(28~30は、センターのみ回答)					
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。					
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
	31	(31は、事業所のみ回答)					
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	2	3			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		5			
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5					
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1				
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5				
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5				

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		必要に応じて園訪問や資料作成、提供など、相談内容に寄り添った対応ができるよう努めている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		5		保護者会を実施していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		鍵付きキャビネットやシュレッターを適切に使用し、事務所内には職員以外立ち入れないよう環境を設定する等している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	4		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		利用者の手が届く場所にドアの鍵がついているため、上から箱を取り付ける等、都度起きた事象に対する対策を行い職員間で共有している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	TAKUMI高槻教室		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2025年 12月 29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	50	(回答者数) 25
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2025年 12月 24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	月毎にテーマを変えて学校体育に繋がる運動を提供している。	学校で行う体育に対して抵抗を小さくすることを目指し、遊びの中で慣れていけるような内容を取り入れている。 学校の時期に合わせた内容の実践や、視覚的に自分の頑張りがわかりやすいようなスタンプラリーも導入している。	イベントと絡め自己肯定感をあげつつ、体を動かす事自体が楽しめるような内容を思案し実行していく。
2	利用者様が利用を楽しみにしてくださっている。	利用者様の要望を取り入れることや、楽しいと思えるイベント等の案内により、通所意欲の向上に努めている。	利用者のみならず、保護者様や職員も一緒になって楽しめる活動内容を継続して実施していく。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	運動スペースに限りがある。	高学年になると体格も大きくなる為、人数により運動内容を考慮し安全に配慮する必要があると考える。	省スペースでも運動負荷の高い内容や、クラスを分ける等を思案していく。
2	ご兄弟と一緒に活動できる機会がない。	人数が多くなると安全面への考慮が更に必要になることに加え、利用者様のスペースが限られてしまう為実践できていない。	イベント等で、ご兄弟やご家族様と一緒に活動できるものを発信していく。(運動意外でも)
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 TAKUMI高槻教室

公表日 2026年 2月 28日

利用児童数 : 50

回収数 : 25

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	22	3			スペースの広さから見て、少し人数が多くなっている。	限られたスペースを有効に利用しながら、満足できる運動量を確保していく。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	25				こどもたちに目の届く適切な人数だと思います。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	23	1	1		こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますが、階段はあります。	階段での事故等が起きないように定期的に注意喚起を行う。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	24	1			いつもキレイです。	
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	24	1				
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	23			2		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	23	2				
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	23	1		1		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	24			1		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	24	1			毎月テーマが違うさまざまなプログラムを提供されており空されていると思います。	
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	1	3	11	10		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	23	2				
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	25					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	14	2	4	5	親子参加の日が時々あります。研修会があれば参加したいです。	研修会の実施を検討いたします。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	22	3				
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	21	1	1	2		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	23	2				
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3	4	10	8	兄弟も一緒に参加できるイベントがあれば嬉しいです。	ご兄弟様含め、ご家族様で参加できるイベントにつきましても実施を検討いたします。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	20	4		1	相談も親身になって聞いてくれます。	
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	23	2				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	16	4		5	LINEでお知らせや連絡が取れるので便利です。	
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	21			3		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	14	1	1	8		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	8	2	1	13		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	20	1		3	大きな事故などは今までにないのでわかりませんが、子どもの様子は毎回教えてください。	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	18	1		5		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	25				仕切りを使用しクールダウンできるので本人も安心しています。	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	24	1			子どもは毎回の活動をとても楽しみにしています。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	23	1	1		1か月に4,5回しかないことが多く、追加したいと申請しても空き待ちでなかなか入れず残念です。	ありがたいことに曜日や時間帯によってはたくさんの方にご利用いただいております。スムーズな案内ができるよう努めてまいります。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		TAKUMI高槻教室				公表日	2026年 2月 28日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		体格が大きくなると狭く感じるため、運動内容を分けたりパーテーションを使用するなど運動強度を確保できるよう工夫している。			
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5					
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5					
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5					
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5					
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5					
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5					
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5					
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5					
適切な支援	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5					
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5					
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5					
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5					
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5					
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5					
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	1				

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		運動内容に利用者様の意見が反映されたり、各個人で決定できる内容を組み込んでいる。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5			各機関と連携を強めていく必要がある。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4	1		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	2		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5			
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	3		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1		
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		5		今後実施予定。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	1		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		ヒヤリハットは常に共有し、議事録に残し再発防止に努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5				